

## にっこりあるきのパンフレット使用の報告

—パンフレットを読んだ患者の思いを知る

5階東病棟

○ 池 眞紀 森澤 陽子 武田 さとみ 石井 初恵  
大石 玉美 中平 真夕子

キーワード：THA 股関節のパンフレット

### I. はじめに

当院では包括医療の開始により在院日数の短縮化が図られ、入院から手術までの期間が平均2～3日となって病棟だけでは十分な術前オリエンテーションが行えなくなっている。そこで外来、5階東病棟、リハビリテーション部と協力して、本年より股関節の手術を受ける患者を対象に、「にっこりあるき」というパンフレットを作成し、入院決定時に外来においてパンフレットを使用したオリエンテーションを実施し、入院後に病棟とリハビリテーション部が協力しながら看護を行っている。

外来で説明をうけたパンフレットに対する患者の思いを知り、患者さんに役立つパンフレットとして修正を加えること、入院から退院までの期間においてパンフレットのどの部分を強化すれば不安の軽減や効果的な援助につながるかを知る目的で調査を行った。今回はパンフレットを使用して理解できたこと、役に立った内容に焦点をあて、報告する。

### II. 研究目的

パンフレットの内容が患者に理解ができたかを知る。

パンフレットを読んで役に立った内容を知る。

パンフレットの内容の不足部分、追加説明の必要部分を知る。

### III. 研究方法

パンフレットの項目に沿った質問用紙を準備して、聞き取り調査を行った。そして聞き取り調査は病棟での日々の関わりの中から情報収集を行った。(調査内容は表1を参考)

対象者：にっこりあるきのパンフレットをもとに説明を受けて股関節手術を受けた患者 14 名 (男性 2 名、女性 12 名) (外来でパンフレットをもらった患者は 6 名、入院後手渡した患者は 8 名)

調査期間：16年8月1日～10月30日

### IV. 結果および考察

入院時パンフレットを持参してきた患者は6名であり、入院後手渡した患者は8名であった。これは入院予約の時期とパンフレット配布開始時期のずれにより生じたものである。

パンフレットについては<覚えていないなあ。記憶にないけど、妻がもらったかも><入院することはないと思って置き場も忘れた>と回答した患者があり、今後対象によっては家族を含めた説明指導を行う必要があると思われる。

入院時の必要物品の準備状況については<マジックハンドは持ってきた、その他は売店で買うつもりです><売店、薬店でかかってきました>との回答が多く、必要物品への関心は高く理解できていた。

自主トレーニングの実施については<各5回ずつ入院してから3日間やってみました、やり方は分かりました><リハの輪がどんなものかわからなくてできなかったです><やってません。若かったらするけど、年やきやりにくい>等の意見が聞かれた。疾患自体が加齢に伴うものであること、又疾患による痛みのため積極的な自主トレーニングができていなかったと思われる。トレーニングの項目で、ゴムを使用しての練習方法を紹介しているが、ゴムの購入方法の記載がなかったために、ゴムがなくて練習出来なかったという内容が多く聞

| 質問内容                  | 回答内容  |
|-----------------------|---|
| にっこりあるきのパンフレットを持ってきたか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・憶えていないなあ。記憶にないけど、もしかしたら妻がもらったかも</li> <li>・入院することはないと思って、置き場も忘れた</li> </ul>  |
| 入院時に必要な物が揃っているか       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マジックハンドは持って来た。そのほかは売店で買うつもりです</li> <li>・靴は、以前同じ手術をした人に手術の後で買うように言われました</li> </ul>   |
| 股関節どうなってるのを読んでわかったか   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もうわかっちゃうと思う読んでない。めんどくさかった。家のほうが忙しかったし。若い時から家庭の医学とか、医学の本を読むのが好きでうんと読みよった。医学の本も10年毎に買ってそれもうんと読んで</li> <li>・パンフレットは一応は目を通したけど、股関節がちびちび説明はちゃんと聞いたとき、それ以上読みよったらお医者にならんといいかん(笑)</li> </ul>  |
| 自主トレーニングの方法をやってみたか    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハの輪がどんなものかわからなくてできなかったです</li> <li>・腰が痛くてできなかった</li> <li>・M病院で、前に右の手術をした後にリハビリをした後にリハビリをした時に言われたことはやってみました。開脚はできません</li> <li>・各5回ずつ入院してから3日間やってみました</li> </ul>  |
| 環境の見直しについては           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しいので読む時間がなかった。目は通しました。環境は改善する予定はないです。トイレは水洗、高い段差はないし手すりがあります</li> <li>・アパートで改善する予定はありません。段差はそんなにないです。階段には手すりがあります</li> <li>・ケアハウスですからちゃんとできてます</li> </ul>  |
| 手術後の注意点で答えられたもの       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ばい菌が入らないようにする。歩き方。食べ物のバランスをよくする</li> <li>・見たら答えるが、見なければ答えられない。転んだらいいかんとう理解はしている</li> <li>・転倒。無理せられん。運動</li> <li>・脱臼。重い荷物を持たない</li> <li>・脱臼 感染 静脈血栓症の予防 肘骨神経麻痺の予防</li> </ul>   |
| パンフレットを読んで始めて知ったことは何か | <ul style="list-style-type: none"> <li>・股関節の役割</li> <li>・十分ためこになった</li> <li>・一杯あった、肘骨神経麻痺について、脱臼が3~4週間のうちに起こりやすいということ</li> <li>・足の親指、麻痺については知らなかった、脱臼し易い事</li> </ul>  |
| 車椅子移乗駆動チェック           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレーキをかけることができる</li> <li>・ブレーキをかけ忘れることはなかった</li> <li>・駆動ができる</li> <li>・健側のみで移乗ができる</li> <li>・車椅子になった時に先生から体重をかけてもいいと言われていた思ったよりコントロールが難しいね</li> <li>・右足に体重がかけれんき難しい</li> <li>・前、練習しました、やり方はわかっています</li> </ul>  |
| 退院後に気をつけなければいけないこと    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期受診、脱臼・転倒、感染、運動、体重コントロール</li> <li>・荷物を持つな</li> <li>・階段の上がり降り、荷物を持たない、リハビリもする</li> <li>・明日リハビリで開く</li> <li>・第一に動き、座ったりいろいろの動きを気をつけないいかん、他に言うことない</li> </ul>   |
| パンフレットはどんなふう          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まであまり知らなかった股関節に対する知識が少しはできたように思います</li> <li>・よく読んでためこになった。家は老人介護(90歳二人)農業で忙しい</li> <li>・初めてのことなのでわからん、リハビリの仕方も書いてくれている、ないよりあったほうがよい。明日リハビリで開く</li> <li>・おおいに役に立った、何も知らなかったき助かった、いろいろ勉強さないいかんね</li> <li>・前の股関節の手術の時はリハビリの重要性が理解できた、失敗談などを入れたらよい。(退院後は運動を継続しなくなる)、カプフルにした方がよりわかりやすい。弾性ストッキングのはかせ方(正しいのはかせ方)を知って欲しい</li> </ul>  |
| 内容                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番最初の受診日に読んで下さいと言われてもらった。詳しい説明はなかったような気がする、記憶にない</li> <li>・入院の時持って来るように書いてあったので持って来た</li> <li>・もらってません</li> <li>・物品の一買もらってません(なくしたかも)</li> <li>・売店(または薬店)で買ってきました</li> <li>・パンフレットはよく読んでませんが大体は持っています</li> <li>・昔の小学6年しか出てないんで、読んでみたけど頭に入っていないです。難しすぎてあんまりわからなかった</li> <li>・初めての病気やきわからんことが多いです</li> <li>・ちらっと読んでだけです。これから読まないかんと思ひます</li> <li>・日常生活もわからん</li> <li>・やってません。若かったらするけど、年やきやりにくい</li> <li>・やってないけど靴は見ました。デイサービスではいろいろやってくれてましたけど、一人でやるのは辛いです</li> <li>・上手にはやれません。なかなか一人ではやりにくいもんです</li> <li>・やり方はわかりました</li> <li>・術後改善する予定</li> <li>・高齢の両親の介護あり、術後改善する予定</li> <li>・前の手術の時リハビリにしました</li> <li>・改善した</li> <li>・環境の見直しは前からやりました</li> <li>・捨らない。こげない。感染は自分での予防策はわからない。トイレの時気を付けた。尿濡れパッド交換の時こげが汚れないように気を付けた</li> <li>・人が、脱臼してくる人は高いものを取る時に脱臼しやすいと言っていた</li> <li>・膝をこんなに曲げたらいいかんと言われた</li> <li>・つま先を動かすこと。親指が変な感じがしたら言う</li> <li>・特になし</li> <li>・適当にしか読んでなかった、これから知ろうと思う</li> <li>・全て</li> <li>・年寄りやき、読んで時は覚えちゃうけど忘れた</li> <li>・特になし</li> <li>・ベッドへ足を上げるのができない</li> <li>・足をかせない、どうしたらいいやろう</li> <li>・右の腕が痛かった</li> <li>・歩行器の方が楽</li> <li>・腕が痛くてできなかった</li> <li>・一回目の入院の時から練習した</li> <li>・練習の時は不安がなかったが、手術後はこんなに乗ってかまんか心配</li> <li>・動きだけと思うやう、他には思ひあたらん</li> <li>・足をあんまり内向けに曲げないこと、それだけは覚えちゃう、開きすぎはかまんろう</li> <li>・読んでないきいかなあね、明日見えます</li> <li>・すねをついて上げるのはいいかん</li> <li>・まあ、今までのところ勉強にはなった。はじめての手術でいろいろ不安があった。まあ、勉強になったと思う。</li> <li>・読まなあ役に立たなあね</li> <li>・意識してなかったことが一杯ある、あのとおり守っていったらいいと頼りにしていく、ころぶことが恐ろしい、足の方靴下をはいたり拭いたりするのがこんなに不自由と思てなかった、反対側の足への負担、あんまり読んでない、やっていただくことを実行したらいいやうに思っています、指導していただいたことを自分で心がけてやっていたこと思っています、頼りすぎ、横になりすぎて体力が落ちちゃうせんかとちよと心配です</li> <li>・離さないと持つちよないかん。何も知らなかったので、手術の後のことが少しわかった</li> <li>・パンフレット見て体操しています</li> </ul> |

かれた。これについては、説明段階でのデモンストレーションの必要性を感じた。

手術後の注意点についてはくばい菌が入らないようにする。歩き方。食べ物のバランスを良くする><脱臼、感染、静脈血栓症の予防、腓骨神経麻痺の予防><捻らない、こけない、感染はトイレの時に気をつけた>等であった。脱臼に対する禁忌体位は理解出来ているが、「何処までなら大丈夫」という程度の加減がわからないという意見があり、入院後、個別に関わっていく必要があると考える。感染に関しては、まず創部を入浴時に日頃からチェックする習慣付けや、傷ができた時には化膿を起さないようにはやめに処置を行うことや、歯の衛生などを含めた具体的な健康管理の説明を付け足すことで、より効果があがると考える。

退院後に気をつけることについては<定期受診、脱臼、転倒、感染、運動、体重コントロール><階段の上り降り、荷物を持たない、リハビリもする><足をあんまり内向けに曲げないこと、それだけは覚えちゅう。開きすぎはかまんろう>等であった。術後の急性期を脱した時点から、退院後の生活背景を考慮したリハビリテーション部と協働の重要性を再認識した。

パンフレットを読んで初めて知った事については<股関節の役割><いっぱいあった。腓骨神経麻痺について、脱臼が3~4週間のうちに起こりやすいということ><足の親指の麻痺については知らなかった、脱臼しやすいこと>などであった。理解の程度に関してはこの結果だけでは明らかにできないが、パンフレットがすぐ手元にあって、繰り返し見ることができるという状況は、一種の安心感と注意喚起としての意識づけができ、術後から退院にむけての内容を理解することに役立っていると考ええる。

パンフレットはどんなふうに役立ったかについては<今まであまり知らなかった股関節に対する知識が少しは出来たように思います><よく読んでためになった><大いに役立った。何も知らなかったき助かった。色々勉強せないかんね><今までのところ勉強にはなった><離さないでもちよらないかん、何も知らなかったので手術の後のことが少し分かった>等、役に立ったという意見が多かった。患者にとって漠然とした知識がパンフレットを読むことにより、明確なものとなっており、パンフレットの効果があったと思われる。

車椅子移乗駆動については、術前リハビリテーション部門の看護師と協力して、病棟で車椅子移乗・駆動の指導を行っている。<ブレーキをかけることができる><健側のみで移乗ができる><右足に体重がかけれんき難しい>等の意見があり、術後の状態を想定した練習で、実際に術後の車椅子移乗は不安を訴える患者が少なくなった。

## V. まとめ

今回の調査により、患者さんはパンフレットの内容を理解できており、役立っているということがわかった。しかし、具体的に指導するという関わりが不十分であったことが、数々の不安や疑問の声となったと考える。パンフレットを基本にして、患者個々の生活背景に応じた指導をすることにより、より効果的なものにしていきたい。